

事業環境の変化に伴う業績予想修正 について

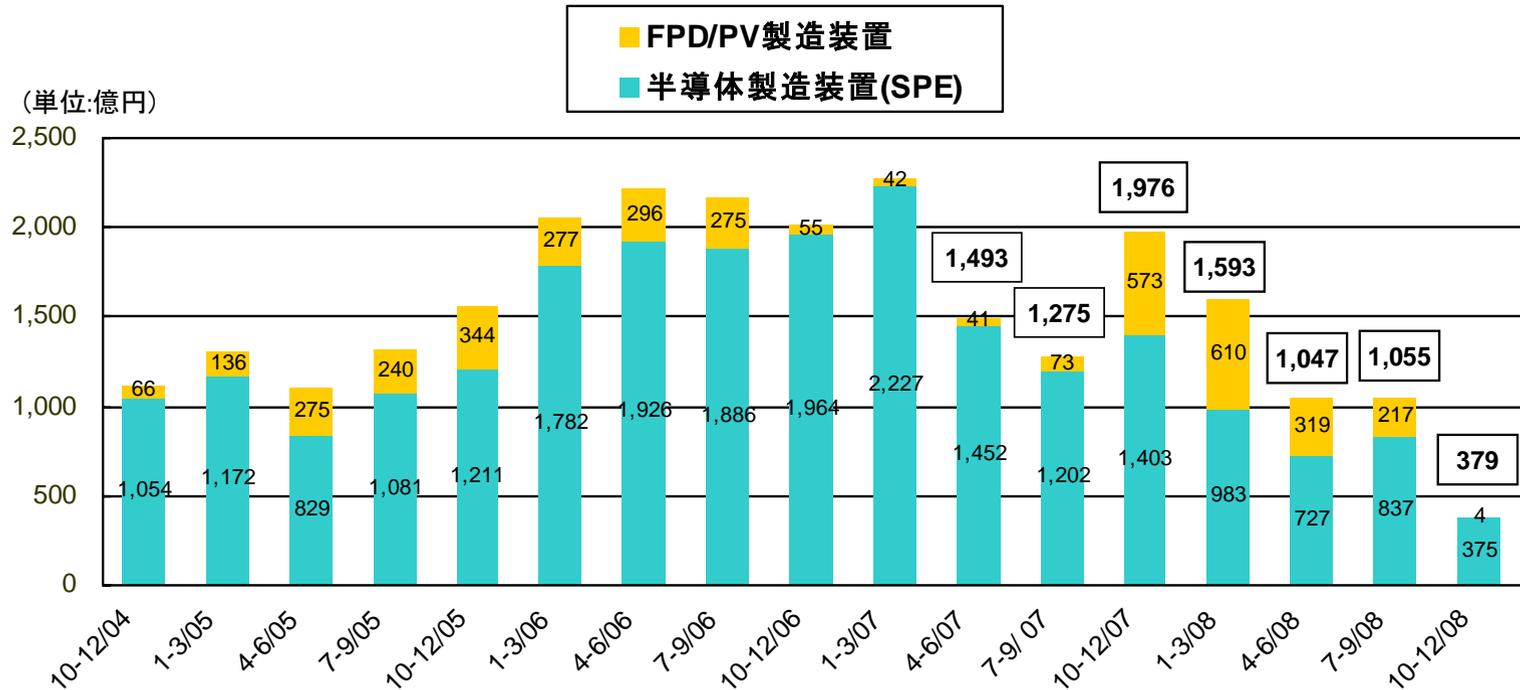
代表取締役社長 佐藤 潔

2009年2月5日

事業環境の変化



四半期 SPE+FPD/PVE受注額

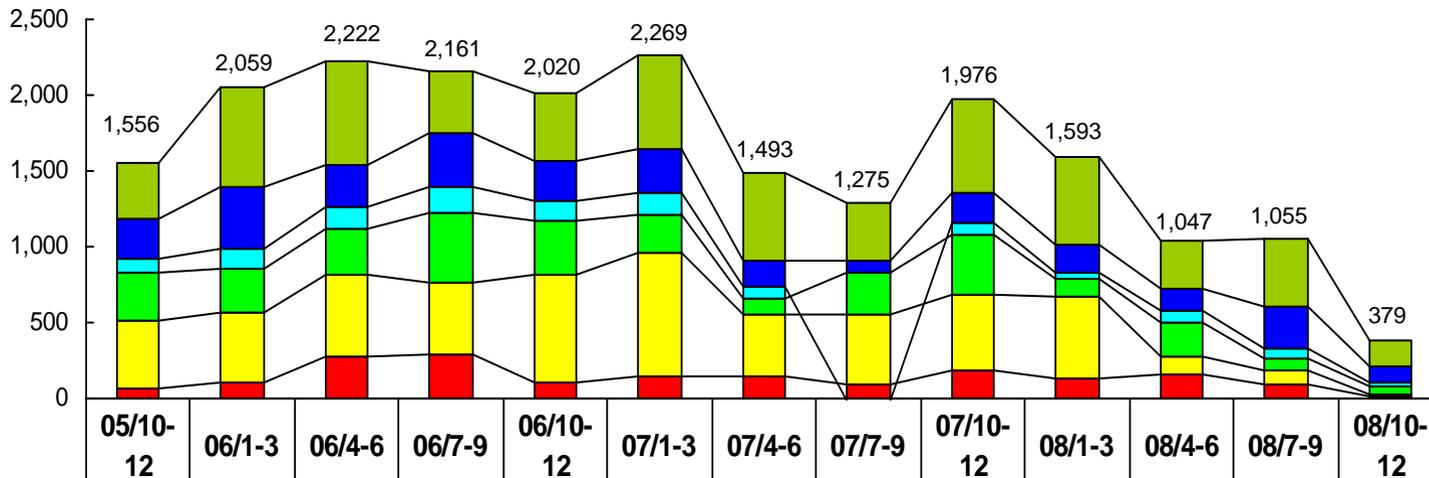


- 2005年10-12月期までは単独ベース、2006年1-3月期より連結ベース
- 単独ベースと連結ベースの主な差異： 連結ベースは海外現地法人におけるポストセールス受注を含む



四半期 地域別 SPE+FPD/PVE受注額

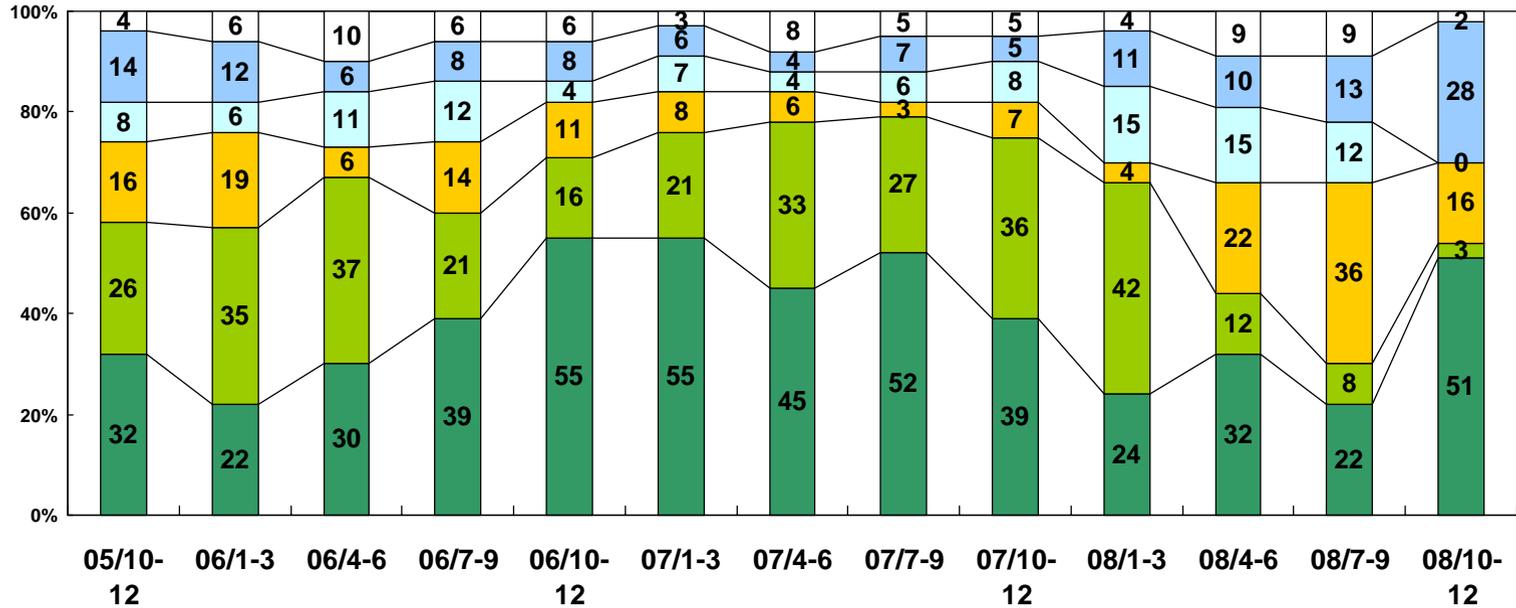
(単位: 億円)



●2006年1-3月期より、受注額を連結ベースで表示しています。



四半期 アプリケーション別SPE受注 (本体のみ)



- その他
- システムLSI
- ロジックファウンドリ
- MPU、ハイエンドロジック
- Flashメモリ
- DRAM

(メモリ内訳は当社推定を含みます) 19



2009年の事業環境

▶ 半導体設備投資

- 世界的な不況によりマクロ環境が想定以上に悪化、厳しい受注環境が続く
- DRAM: 生産調整により、スポット市場では価格上昇が見られるが、製造キャパシティに余剰感あり。ライン統廃合等により、年後半からの需給改善を見込む。コスト競争力強化の為の50nm微細化投資のみ一部継続。
- NAND: DRAM同様に価格上昇はあるが、ライン余剰感有り。年後半の市況好転に期待したい。
- LOGIC/ファンダリ向け: 市況悪化により市場牽引のPC、携帯がマイナス成長と予想され、設備投資は一部の顧客の45nm対応に限定される

▶ FPD設備投資

- 昨年末より大型TV向けパネル需要が想定を下回り、生産調整により急速に受注環境が悪化、厳しい受注環境が続く



2009年3月期 業績予想の再修正



2009年3月期 業績予想修正

▶ 事業環境の急激な悪化により、下期および通期連結業績予想を下方修正する

(単位:億円)

	2008年3月期	2009年3月期 (予想)						
		前回修正予想 (10/31)			修正予想 (2/5)			
		通期	上期(実績)	下期	通期	上期(実績)	下期	通期
売上高	9,060	3,012	2,388	5,400	3,012	2,088	5,100	-44%
SPE	7,264	2,087	1,353	3,440	2,087	1,193	3,280	-55%
FPD/PVE	680	401	524	925	401	464	865	27%
EC/CN	1,111	521	509	1,030	521	431	952	-14%
その他	4	2	3	5	2	1	3	-34%
営業利益	1,684 (18.6)	262 (8.7)	-142 (-5.9)	120 (2.2)	262 (8.7)	-192 (-9.2)	70 (1.4)	-96%
経常利益	1,727 (19.1)	289 (9.6)	-124 (-5.2)	165 (3.1)	289 (9.6)	-159 (-7.6)	130 (2.5)	-92%
税前利益	1,692 (18.7)	286 (9.5)	-126 (-5.3)	160 (3.0)	286 (9.5)	-246 (-11.8)	40 (0.8)	-98%
当期純利益	1,062 (11.7)	173 (5.8)	-93 (-3.9)	80 (1.5)	173 (5.8)	-165 (-7.9)	8 (0.2)	-99%

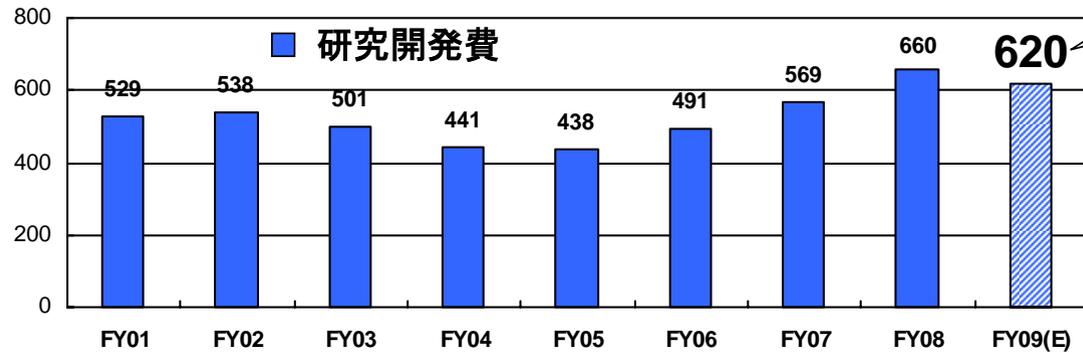
()内: 利益率



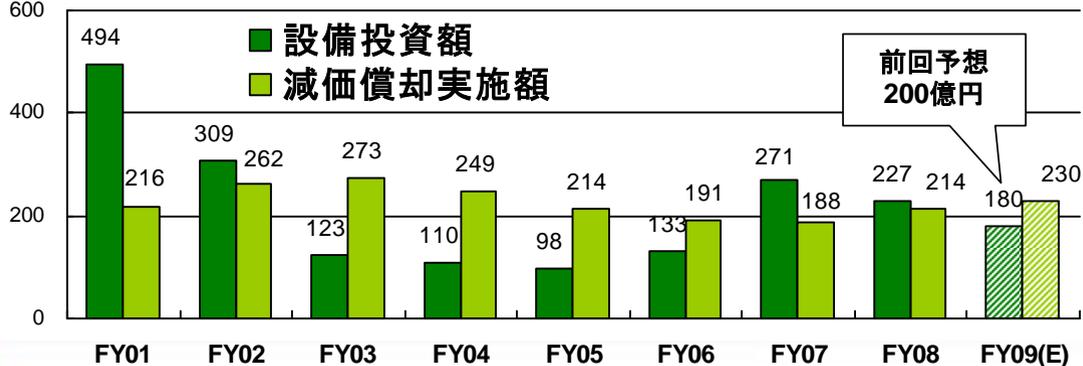
研究開発費・設備投資計画

研究開発費は、将来の成長を見据えて引き続き高水準を維持

(単位: 億円)



(単位: 億円)



今期の重点施策

固定費削減策

1. 総額320億円の固定費削減を実施(2008年3月期比)

- ・人件費、外注費、海外人員の削減
- ・工場稼働日の縮小

2. 環境急変に伴う緊急対策

- ・追加策として、更に20億円の削減を予定



持続的成長のための重点施策

1. 収益体質強化の遂行

- ・グローバルベースでの拠点の統廃合
- ・外注および一般経費のさらなる削減
- ・宮城新工場 2009年4月着工予定を延期

2. 成長投資を継続

- ・既存分野および新規分野ともに研究開発投資は厳選して継続
- ・研究開発の選択と集中により、一段のシェア向上を目指す

3. 成長分野におけるビジネス体制の構築

- ・成長が期待されるビジネスエリアでの人財の育成と最適配置
- ・太陽電池装置市場での技術と地位を確立させる

